

stage

今、スペースBEN（八戸市）で、2月1日〜3日に上演する、『第11回東京こまばアゴラ劇場大世紀末演劇展』出展作品、プロデュース集団テアトロbe「パズル〜タダシサの限界〜」稽古の真最中です。

このテアトロbeがどんな集団なのかは、最近のアミューズをみて頂ければわかると思います。

私は、青森市を中心に活動する劇団雪姫の団員として、日頃から演劇生活を送っています。

【劇団雪姫】劇団雪姫は平成10年、青森市・八戸市・弘前市・五所川原市・盛岡市での、15周年記念公演を終えました。八戸市では、スペースBENで二度の上演を経験しています。代表・演出の貴田千代世（本名）を中心に、演劇に没頭する10名の団員は、「死んだらピンスポットで墓石を永遠に照らしてほしい」というくらい照明好きな役者が多く、「日常が芝居」というほど芝居好きな演劇尽の集団です。劇団雪姫の演出は、乱暴な言い方だけど非常にスマートで制約がなく、求められるのは役者の本質を生かした『高揚感のみ』です。

稽古場では、状況だけが与えられ何もなかったところへ放り出された役者同士が、脚本の説明のために存在するというよりは、それぞれが独立した表現者として向かい合い、段取りのない芝居を楽しんでいます。団員は個々の感性の中で、

演出の意とするものを表現するために、普段から感性の引き出しを増やし、日常・感情・映画・写真・音楽・照明とさまざまな表現方法にこだわりを持って生活しています。だから、日常が芝居の団員が多い劇団です。今、第18回公演に向けて、稽古が始まろうとしています。1999年、第18回公演は、清水邦夫作「あらかじめ失われた恋人たち」。5月18日五所川原オルテンシア、6月5日青森市民文化ホールで上演されます。男性1名、女性3名が中心となり森の中で表現される物語は、今までにない高揚感を感じさせる舞台となるはずですよ。

【テアトロbe】昨年10月からテアトロbeの稽古が始まりました。その後、幾度と繰り返される稽古の中で、私以外の4人（共演する八戸の役者さん）は、芝居に対して遊び心がたくさんあり、内面がカッコよくて、とてもスタイリッシュに芝居を造っていました。脚本を1つの作品として造り、見せるということには繰り返して練習をしなければならぬという逃げられないものがあります。この4人（勉さん・平霞さん・長尾さん・山田さん）はそれに取り組む方法が「自然」でした。台本を細かく読み込んで役造りをしていくのではなく、お互いに本を読んでいたから自然にそうなったような役造りと、それに対しての繊細な演出に

拍子抜けしてしまったというか、

演じるということに対して必要以上に緊張していたわたしも、肩の力が抜け軟らかさが見えたような気がします。芝居造りの方法が全く異なる集団に、稽古当初は安心・不安・信頼のようなものが何も感じられず、戸惑いだけしかなかったわたしは、稽古が始まって3ヶ月、脚本を引用すると、「あわない角が削れていってお互いにまるくなっている感じがして、違和感」な舞台造りの稽古をじっくり味わいながら楽しんでいきます。「テアトロbe」の舞台は、本番をまじかに控え、パズルの完成もあと残り〇ピースとなっていています。その残りの〇ピースは、舞台上上げてはじめて完成する。観客ができる、それがこの芝居の面白

いところですよ。

【余談】テアトロbeの稽古がはじまってから、八戸市で2度、芝居を観る観客を目にする機会がありました。そこで、感じたことをちょっと余談で触れてみたいと思います。私は時々、芝居を観ていると「自分は演劇をやっている」、その妙なプライドが楽しむ目を邪魔することがあります。目の前で演じている役者さんに対して、知

らず知らずのうちに評論家になってしまい、生意気にも「この表現がいい」とか「ここはこの表現の方がいい」など役者さんを観ながら考えてしまいます。最初は娯楽として自分を楽しませるために観に行っているはずなのに、純粹に芝居を楽しむことができなくなっている、近頃そう感じる人が多いです。芝居を見る前から肩に力が入り、構えてしまい、目の前のものを素直に受け入れずに一歩引いて観てしまう。変な言い方ですが、妙ないやらしさが芝居を観る目の邪魔をします。最近、観客を見ていると私と同じ人が多いような気がします（演劇関係者が多い事もあるでしょうけれど）。芝居を観終わった後、各々が映画評論家・演劇評論家のように無表情となってアンケートを記入する（私も含めてですが）。「観たものに充実感・満足感が感じられなかった」とも違うような気がします。一観客として、楽しむために芝居を観るのだとしたら、芝居を観る前から構えずに、もつと心を解放し、目の前の現実を素直に受け入れる、そんな感覚を忘れず芝居を楽しむながら観賞できればと思います。

テアトロbe / 八戸

〈文〉劇団雪姫・佐々木真理子

2月のFriday Amusement Negative Shop

FANSの番組につきましては、デーリー東北の「あすのメモ」[きょうのメモ]欄でご確認下さい。

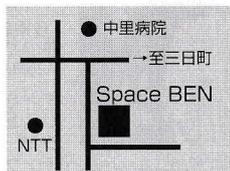
テアトロ [be]: 東京公演
『パズル〜タダシサの限界』

『大世紀末演劇祭』

2月1日〜3日
(1日午後7時30分〜、2日・3日午後4時〜、午後7時30分〜)
会場 / こまばアゴラ劇場
東京都目黒区駒場1-11-13 ☎03-3467-2743

料金(共通):
一般 ¥2000
(当日 ¥2300)、
高校生以下 ¥1200
(当日 ¥1500)

問 スペースベン
八戸市柏崎1-11-8
☎&FAX 43-9876



駐車場はございませんので、車のご来場はご遠慮下さい。
(近くに西町書店駐車場有り)

いよいよ N.Y. 公演が実現!

昨年4月に本誌に登場した、あのクレイジージャップ・木村勝一氏。様々な出来事やトラブルがありながらも、いよいよ2月26〜28日にN.Y. のOFF OFF BROADWAYにて公演を行う。場所は「THE PRODUCERS CLUB THEATRE」

木村氏からは「時代は世紀末、クレイジージャップは幕末の志士となりN.Y.へ渡る。閉塞した日本の魂を救えるのか!? 只今、東京にて稽古中!! 木村勝一」との、コメントも届いた。上演作品は『THE LAST OF SAMURAI RYOMA ~龍馬昇天』。公演については、後程じっくり紹介する予定。お楽しみに!